

調布スマートシティ協議会 2024(令和6)年度第3回幹事会 議 事 要 旨 (案)

日時: 2025(令和7)年3月31日(月)

会場: 書面開催

出席団体: 国立大学法人電気通信大学, 特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム,
(敬称略) アフラック生命保険株式会社, 京王電鉄株式会社, 調布市, 東日本電信電話株式会社,
日本郵便株式会社, 鹿島建設株式会社鹿島技術研究所, 多摩信用金庫, 株式会社東京スタジアム

会議資料: 【資料1】あんしんコール実証事業 ※非公開

【資料2】「(仮称)調布市スマートシティ戦略」の策定に向けた取組について ※非公開

1 報告事項

(1) 「調布あんしんコール実証事業」の進捗状況について【資料1】

■ 防災WGからの補足説明

- 今年度の取組の総括に向けて, 参加者向けアンケートを実施中。まずは調布市とNTT東日本との間で取組としての今年度の評価・検証を行い, その後, 協議会として本実証事業の検証結果について, 公表含めどのように扱っていくかということを議論できたらと考えている。

2 協議事項

(1) 「(仮称)調布市スマートシティ戦略」の策定に向けた取組について【資料2】

■ 事務局からの補足説明

- これまでの各構成団体との意見交換を踏まえ, 令和8年度に調布市が策定を目指す「(仮称)調布市スマートシティ戦略」について, 位置付けと策定目的, 現時点での戦略で描きたいポイントをまとめた。
- 大きなポイントとしては2点。市民起点のスタンスやデータの利活用を取組の軸に据え, 調布市としてのスマートシティの捉え方を示すものとする, そして, 当協議会を市におけるスマートシティの牽引役として改めて位置付けたうえで, スマートシティに向けた取組には, 協議会構成団体のみならず多様な主体が参加できる枠組みとすることを掲げる考え。
- これまで各構成団体から, 協議会として市民参加やデータ利活用の具体の取組を実施していきたいという意見が挙がっていることから, 次年度は, 戦略策定に向けた動きと併せて, データ利活用等の取組もプロジェクトチームを組むなどして実施したい。なお, 既存のWGは存続し, プロジェクトチームは新たな位置付けとして考えている。

■ 主な意見

- 大きな方向としては賛成という前提で, 市民参加に当たっては, 地域課題などにスコープしていくと市民のより積極的な参加につながりやすいのではないかなと思う。
- 次年度の戦略策定に向けた動きとして, 庁内での合意形成含め, いつ頃どのような段階を踏んでい

くのかというマイルストーンがあると、協議会としても一緒に検討がしやすい。

- データ利活用を基本に据えて情報のインフラをつくりつつ、市民参加も得ながら方向性を見定めるという2つの軸という印象で、良い方向かなと思う。
- 次年度早めに次回幹事会を開催し、プロジェクトチームの組成はじめ、具体の動きについて検討したい。